

壮蚕飼育標準表

春 蚕

4 ～ 5 令 条 桑 育 〔1日3回(前7 後1 後7)〕					
令	日順	1日分の給桑量 kg	蚕座面積 ㎡ (1.5×5.4m)	作 業	飼育取扱い・環境調節
4令 22℃ 24℃ 75% (差 3.0°)	1	25	8.1	網入れ・桑付け	・本表は4令朝桑付けで始まる場合を示した。 ・4令中は低温に注意し20℃以下にならぬよう補温する。
	2	40	10.8	除沙・払座	
	3	52			
	4	65			
	5	43			・経過をそろえるため、遅口をつり分け、経過別飼育を行う。 ・就眠時は、 <u>通風を促し、消石灰などを散布し蚕座の乾燥を図る。</u>
	6		14.8	1.5×9.9m	就眠・払座 消石灰散布
給桑量 条桑 225kg					
5令 20℃ 23℃ 70% (差 3.0°)	1	20	14.8	桑 付 け	・よく起き揃ってから桑付ける。 (午後7時頃)
	2	70	10.8		・低温気象時は、日中の昇温時に給桑量を多目にして十分食糞させる。夜間は残桑の生じないよう調節する。
	3	95		除 沙 準 備	・網か綱を入れ除沙準備をする。
	4	145	18.9	除 沙 ・ 払 座	・給桑量が増えるに従って条桑が密着しやすくなるので、よく解きほぐして給与する。 ・盛食期、必要に応じ蚕座の手直し、補桑をする。
	5	170			
	6	200			
	7	200			
	8	200			
	9	170			・初熟蚕5%～10%程度は手拾いする。 ・条払いする2～3回前の給桑時に網入れする。
	10	70			上 蔭 ・条払いは熟蚕40～50%で払いおとしにかかる。
給桑量 条桑 1,340kg					

夏蚕・初秋蚕

4 ～ 5 令 条 桑 育 〔1日3回給桑(前6 後2 後7～8)〕					
令	日順	1日分の給桑量 kg	蚕座面積 ㎡ (1.5×5.4m)	作 業	飼育取扱い・環境調節
4令 24℃ 26℃ 75% (差 2.5° 3.0°)	1	26	8.1	網入れ・桑付け	・本表は4令朝桑付けで始まる場合を示した。 ・ <u>防暑に注意を払う。</u> ・桑が乾燥する場合は1回の給桑量を減らし、給桑回数を増やして残桑が生じないよう調整する。
	2	46	10.8	除沙・払座	
	3	58			
	4	52			・経過をそろえるため、遅口をつり分け、経過別飼育を行うなう。
	5		16.2	1.5×10.8m	就眠・払座 消石灰散布
給桑量 条桑 225kg					
5令 24℃ 26℃ 70% 75% (差 3.0°)	1	50	16.2	桑 付 け	・よく起き揃ってから桑付ける。 (朝9時頃)
	2	90		除 沙 準 備	・網か綱を入れ除沙準備をする。
	3	140	20.25	除 沙 ・ 払 座	・必要に応じ蚕座の手直し、補桑する。 ・ <u>防湿と気流に気をくばる。</u> ・盛食期は給桑量不足のないように特に夜間は給桑量を多目にする。
	4	190			
	5	200			
	6	180			
	7	130			・初熟蚕10%程度は手拾いする。
	8				上 蔭 ・条払いは熟蚕40～50%で払いおとしにかかる。
給桑量 条桑 980kg					

晩 秋 蚕

4 ～ 5 令 条 桑 育 〔1日3回(前7 後1 後7)〕					
令	日順	1日分の給桑量 kg	蚕座面積 ㎡ (1.5×5.4m)	作 業	飼育取扱い・環境調節
4令 23℃ 25℃ 75% (差 2.5° 3.0°)	1	26	8.1	網入れ・桑付け	・本表は4令朝桑付けで始まる場合を示した。 ・朝夕の低温時は補温し、 <u>日中高温時には通風をはかる。</u>
	2	45	10.8	除沙・払座	
	3	56			
	4	55			・経過をそろえるため、遅口をつり分け、経過別飼育を行う。
	5		16.2	1.5×10.8m	就眠・払座 消石灰散布
給桑量 条桑 182kg					
5令 21℃ 24℃ 70% 75% (差 3.0°)	1	30	16.2	桑 付 け	・よく起き揃ってから桑付ける。 (午後4時頃)
	2	60			・桑が乾燥する場合は1回の給桑量を減らし、給桑回数を増やして残桑が生じないよう調整する。
	3	70		除 沙 準 備	・網か綱を入れ除沙準備をする。
	4	100	20.25	除 沙 ・ 払 座	・次第に気温が低くなるから、冷湿にならぬよう注意し、夜間の給桑量を加減する。
	5	120			
	6	140			
	7	150			
	8	140			
	9	110			・初熟蚕10%程度は手拾いする。
	10	40			上 蔭 ・条払いは熟蚕40～50%で払い落としにかかる。
給桑量 条桑 960kg					

中 蔭	上蔭後の日順	目標温湿度	摘 要
	1日目		戸障子をひらき、暖房等で適温を維持。強い光線や風を防ぐ。
	2日目	温度 22 ～ 23℃ 湿度 60 ～ 70% (差 4.5 ～ 3.0°)	暖房等で適温を維持し、極力火力を使い通風換気をはかる。回転族下の尿うけ又は新聞紙、厚紙等は2～3回取り替える。
	4日目		吐糸終了。
	5日目以降	22～24℃	暖房等で適温を維持して、化蛹をうながす。収穫8～9日目、選繭を厳重に。出荷10～11日目。

中 蔭	上蔭後の日順	目標温湿度	摘 要
	1日目		蚕が足場をつくるまでは強い風と強い光線をさける。その後は、つとめて <u>通風換気をはかり、高温多湿の場合は扇風機の利用も有効である。</u>
	2日目	温度 24 ～ 26℃ 湿度 60 ～ 70% (差 4.5 ～ 3.0°)	回転族の尿うけ又は新聞紙、厚紙等は2～3回取り替える。 <u>極力通風換気につとめる。</u>
	3日目		<u>通風換気につとめる。</u> 吐糸終了。
4日目以降		収穫は上蔭後6～7日目、選繭は厳重に行うこと。	

中 蔭	上蔭後の日順	目標温湿度	摘 要
	1日目		戸障子を開放し、暖房等で適温を維持する。蚕が足場をつくるまで、強い光線や風を防ぐ。
	2日目	温度 22 ～ 23℃ 湿度 60 ～ 70% (差 4.5 ～ 3.0°)	暖房等で適温を維持し、極力通風換気をはかる。回転族の尿うけ又は新聞紙、厚紙等は2～3回取り替える。
	4日目		吐糸終了。
	5日目以降	22～24℃	暖房等で適温を維持して化蛹をうながす。収穫8～9日目、選繭をていねいに。出荷10～11日目。

- ◎ビニールハウス利用の飼育では
- ◆低湿地に設置したハウスは、地面からの湿気によって室内が多湿になるので、床面にビニールシート等を敷き防湿を図る。
 - ◆春蚕・晩秋蚕期の日中晴天時には、網幕を1m内外開放して通風換気に努める。夏蚕・初秋蚕期は網幕を常時開放し、十分通風換気をはかる。
 - ◆春蚕・晩秋蚕の低温のときや夜間は網幕をおろすが、ハウス内環境の保全のため、密閉は避ける。
- ◎稚蚕人工飼育の桑葉移行時では
- ◆配蚕後2～3日間は24℃を目標に飼育する。
 - ◆配蚕後2～3回はやや軟らかめの桑葉を与える。
 - ◆配蚕後、適時網でつり分け、経過別に飼育する。

- ◎蚕病予防対策
- ◆各蚕期前後の清掃・消毒を徹底して行う。
 - ◆族器の組立は配蚕前に済ませ、飼育中は上蔭室へ立ち入らない。

◎普通蚕品種、ぐんま200以外の蚕品種(なつこ等)については、飼育日数や食桑などが上記とは異なるので、農協の養蚕担当職員等にお問い合わせください。